

遠賀町農業委員会通信

第 2 号
平成 25 年 4 月 1 日発行
＜発行責任者＞
遠賀町農業委員会
会長 岩崎 公彦

耕作放棄地対策

豊かな農地を取り戻せ!



昨年度に引き続き十二月に農業委員会で耕作放棄地の一斉調査を行いました。昨年度の耕作放棄地に対する通知などにより、一部改善され、再生して耕作に至った農地もありましたが、相続などで財産分与が進む中、遠方の地権者の管理が行き届かず、放置された農地など、未だ二〇〇筆を超える農地が耕作放棄されたままです。その一方で農地の受け手となる農家も高齢化により農業を離れる方も出ています。皆さんの周りで解決できない農地の管理について、地区の農業委員にご相談ください。ぜひとも私たち農家みんなの手で荒れた農地を再生し、豊かな農地を取り戻しましょう。

農地のあっせんなどご相談のある方は、農業委員会事務局までご連絡ください。

遠賀町農業委員会が表彰されました!



一月十七日、福岡国際会議場で開催された福岡県農業委員研修大会において、遠賀町農業委員会が「全国農業新聞」の購読数で優秀な成績を修め、福

岡県農業会議から表彰を受けました。これからの農業も情報が大事。専門の新聞だからこそできる細かで最新の情報満載の農業新聞を愛読して、農業の最先端をつかみましょう。



研修の終わりには、農業委員一同で今年一年の豊作祈願に宮地嶽神社を訪れました。

食育活動

持てないくらいの抱きしめて
台地の恵みを



長年に渡って取り組んでいる「ちびっこ農園」。島門小学校の5年生が昨年秋、元気にもち米の収穫を体験しました。

このもち米は、別府・千代丸・今古賀地区を担当する大場泉農業委員の熱血指導の下、子どもたちが田植えをし、大事に育てたものです。収穫の前に行われた、鎌の使い方や稲の束ね方についての説明に真剣に耳を傾ける姿は、将来この中から次世代の農業後継者の登場を感じさせるものがありました。

先祖から引き継いだ大切な農地を若い世代に引き継ぐために私たち大人ができることを取り組んでいきたいですね。



搗いて、丸めて、頼張って



ちびっこ農園で収穫したもち米一五〇kgを相手に、朝早くからPTAも練り出し、子どもたちが大騒ぎ。渾身の力で杵を振り、心を込めて丹念に丸め、最後は大事に育んだ台地の恵みを満面の笑顔で口いっぱい頼張りました。

この子たちも伸び伸びと育ち、やがて年長いてもなお、もちを手にする喜びをながく感じていけたらいいですね。



農業者年金に

加入しませんか?

引退後の安心した生活のために、農家みんなが助け合う農業者年金にあなたも加入しませんか? 詳しくは農業委員会事務局まで。



がんばれ、女の子！フレッシュ応援団 島津の綴る嫁姑のタスキリレー

ひと皮むけた
玉ねぎの味

まだ肌寒さ残るものの桜の花がほころびだした3月の農業倉庫で、もくもくと玉ねぎの皮をむく2人の女性。鬼津在住にして島津で農業を営む大場郁子さん、敦子さんは、農業のタッグを組んで十年目。米4町5反の他に玉ねぎやブロッコリなど各種野菜を栽培し、ほぼ一年間通して農協のやさしい畑を中心に出荷しています。



大場 敦子さん 大場 郁子さん

辞め、看病に専念することになり、やがて義信さんが亡くなってからは、一日日が暮れるまで忙しく働く母郁子さんを見て、農業を手伝うようになった。

大場家には2人の息子さんがいますが、それぞれ別に職を持ち、農業に関しては田植えと稲刈りを手伝う程度。農業など全く経験のない普通の嫁が一転して土にまみれることになったのです。

3人の子育てをしながらの農業見習いが続き、めまぐるしい毎日。「青空の下で働けるなんてサイコー！」そう語る敦子さんは底抜けの

嫁の敦子

さんは、結婚して大場家に来たときは外に出て働いていましたが、郁子さんの夫、義信さんが体を悪くしたため、敦子さんは仕事を



明るさで日々を乗り切っています。「お母さんの言われたとおり、右に左に動くだけです。」そう言いながらも、何も言われなくても次を考えて体を動かし、今ではあうんの呼吸で郁子さんと頑張っています。そんな敦子さんの一番の喜びは美味しい野菜、特に玉ねぎがたくさん食べられること。かつての野菜嫌いはどこへ行ったのか？野菜を育てる喜びとそれを食べる喜び。一生産者であり、一消費者である農家として、天職とも思える2人が上手にタスキリレーを渡しつつあります。郁子さんの育てた嫁と玉ねぎ、どちらもひと皮むけて素敵なお味をかもし出しています。



4月29日(昭和の日) こどもまつり 農業ブース出展!

遠賀総合運動公園
10時~14時

遠賀町の農業を知ってもらおうと、ポンポン菓子や米麺スイーツの販売や農機の展示、お米がでるまでのパネル展示など行いますので、どうぞ会場に足をお運びください。



小川県知事も
松本県議会議長も
シコシコつるつるを
大絶賛!



「おんが米麺」は、遠賀川駅横「遠賀屋」さんで食べられます。



町村フェアにて



おんが米麺

ちよっと一口地産地消宣言!
遠賀のソウルフード

「これはうどん?」いえいえ違います。これは米粉から作った「おんがべろめん」です。イタリア料理店を営んでいた店主が一転、「日本人なら米を食べろ!」と言わんばかりに遠賀の米を使った新しい地元料理を考え、地産地消を目指して頑張っています。シコシコつるつる、お米ならではの新感覚。今日の昼食にいかがですか?

遠賀町ブランド化事業が 新たなスタート! 遠賀町産の農産物を 町民の皆さんに!

地産地消を合言葉に取り組んでいる遠賀町ブランド化事業が、3年目を迎えました。昨年好評だった遠賀町産米「夢れんげ」と清涼飲料水「おんが赤しそ」は着々と計画が進んでいます。また、菜種油の取り組みも始まっており、ブランド化事業はまた次のステージに向かってスタートを切っています。町民の方々には地元農業を応援する声も多く聞かれます。ブランド化事業の対象となっている農産物以外の遠賀町産農産物もできるだけ多くの町民の皆さんに「美味しい」と言っていたり、ためにも農業の活性化を目指してみんなでがんばりましょう。

〈平成二十五年貸借料情報〉

- 平成二十四年の農地の貸し借りにかかる賃借料の平均額を参考としてお知らせします。
- 遠賀町全域
- 現金の場合(十アールあたり)
一万一千円
- 物納支給の場合(十アールあたり)
玄米五十キログラム

《編集後記》

取材した大場さんは、本当の親子のように仲が良く、うらやましく思いました。わたしも愚痴ばかりいわず、日々楽しく頑張ります。〈高崎昭子〉取材をしていて、自分が何もわからない中で農業のお手伝いを始めた若い頃を思い出して、懐かしくなりました。〈瓜生正代〉